

## 沖縄県におけるマダニ類の人体刺咬5例について

比嘉ヨシ子・岸本高夫・仲程一博<sup>1)</sup>

### Five Cases of Tick-bite among Humans in Okinawa Prefecture

Yoshiko HIGA, Takao KISHIMOTO and Kazuhiro NAKAHODO<sup>1)</sup>

#### I はじめに

マダニ類は主に家畜、ペット、野生動物などに寄生して、吸血だけでなく強い搔痒感を伴って皮膚炎を起こさせたり、各種伝染病の媒介体となるので、その被害は軽視できない。しかも、マダニ類は成虫期のみならず、幼虫若虫期にも吸血を必要とし、脱皮のたびに宿主転換を行うものが多く、しばしば人を刺咬し、吸血するものがみられる。

国内におけるマダニ類の人体刺咬例は、これまでに、500例以上(山口, 1989)が報告されているが、沖縄県においては報告例がない。著者らは1967年から1990年までに、タカサゴキララマダニ由来の刺咬4例とクリイロコイタマダニによる刺咬1例について、同定する機会を得たので報告する。

#### II 人体刺咬とその背景

##### 症例1. タカサゴキララマダニ刺咬

患者: 21才, 男子, 学生  
現症歴: 1967年12月10日, 国頭村与那にある琉球大学の演習林において, 野鼠の生息密度調査のため, 山林に入りヤマガメと接触した。著者の1人比嘉も参加し目撃している。調査終了後12時間経過して, 下肢にマダニが附着し, 吸血しているのに気づき自ら除去している。  
摘除標本: 摘除したマダニは県公害衛生研究所に持ち帰り検索したところ, 体形, 背板の形態と斑紋, 気門および跗節の形態, 眼の有無などによりタカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844 ♀1 と同定した(山口ら, 1971) (図1)。

##### 症例2. タカサゴキララマダニ刺咬

患者: 34才, 女子, 公務員  
現症歴: 1970年6月4日, 名護市の南南城址で, 調査のため林床に入った。著者の1人比嘉も参加した。数時間後に, 下肢にマダニが附着しているのに気づき直ちに除去した。  
摘除標本: 摘除したダニは実験室に持ち帰り検索したところ, タカサゴキララマダニ♀1 と確認した(図1)。

##### 症例3. タカサゴキララマダニ刺咬

患者: 40代, 男子, 公務員  
住所: 名護市字田井等388  
現症歴: 1987年2月23日, 名護市の幸地川中流添いのクワズイモガ群生している場所(オリオンビール工場正門から約1km上流)で用をたした。その後2月28日に, 大腿部にダニ6匹程附着し, 少し腫れているのに気づき自ら除去している。

摘除標本: 摘除したダニ♀1, ♂1が名護保健所を経て県公害衛生研究所に持ち込まれた。検索の結果はタカサゴキララマダニと判明した(図1)。

##### 症例4. タカサゴキララマダニ刺咬

患者: 50代, 女子, 農業  
住所: 石垣市字伊野田  
現症歴: 1990年3月20日, 農作業中にダニと思われるものが下肢に附着し, 数日後, 吸血による腫脹を生じているのに気付いて自ら除去している。  
摘除標本: 除去した標本♀2個体と発生現場付近にいたセマルハコガメに附着していたダニ成虫♀1が八重山保健所を経て県公害衛生

<sup>1)</sup> 宜野湾市記念病院 (〒901-22 宜野湾市志真志182)

研究所に持ち込まれた。検索の結果は3個体ともタカサゴキララマダニと判明した(図1)。

症例5. クリイロコイタマダニ刺咬寄生

患者：14才，女子，学生

初診：1990年8月20日

主症：左耳に雑音

現症歴：1990年8月15日頃より左耳の雑音に気づき，耳痛や難聴はないが雑音が続くために8月20日宜野湾記念病院耳鼻科を訪れ，著者の1人仲程の診察処置を受けた。

所見：右耳正常鼓膜

左耳を手術用顕微鏡下で拡大して観察すると，外耳道にダニらしい虫体が2本の歯牙を鼓膜に食い込ませているが吸血膨大がないのが明確に観察された(図2)。

鼓膜は歯牙食い込みの部分では発赤を認めるも，他の部位では正常所見を示した。また，時々虫体が肢を動かしており，これが患者に雑音として聞こえたものと思われた。

摘除標本：8%キシロカイン噴射により虫体を麻痺させた後，手術用顕微鏡下で鼓膜に食い込んでいる歯牙を曲針で摘除した(図3)。

異物は運動性を示し，ダニ類と判明したので，同定のため県公害衛生研究所に持ち込んだ。検索の結果，体色，体形，眼の有無，気門及び第一基節の形態などによりクリイロコイタマダニ *Rhipicephalus sanguineus* Latreille, 1806 …♀1と判明した(山口ら, 1971)(図4)。治療経過：異物除去後は症状も軽快し，鼓膜の穿孔もなく聴力も正常範囲内となる。

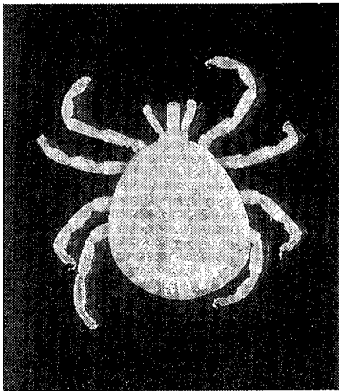


図1. タカサゴキララマダニ  
*Amblyomma testudinarium* Koch, 1844

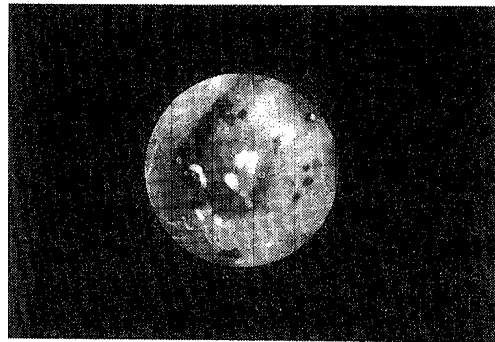


図2. 摘除前の外耳道内の刺咬部位

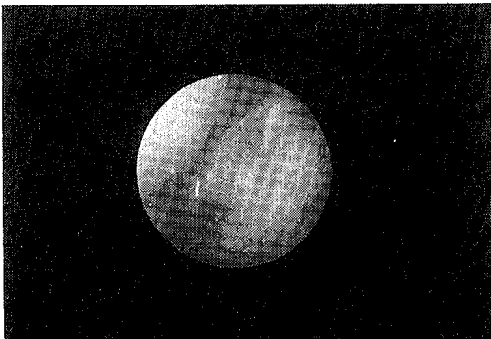


図3. 摘除後の外耳道内

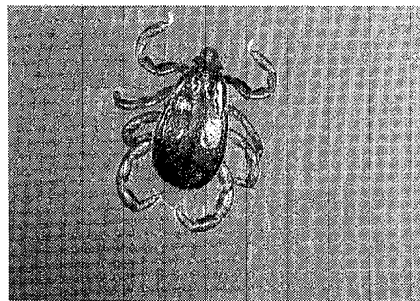


図4. クリイロコイタマダニ  
*Rhipicephalus sanguineus* Latreille, 1806

表1, マダニ科2種による人体刺咬5例

症例	種	発生年月日	場 所	年齢	性別	職業	刺咬部位	契機
1	タカサゴキララ マダニ (♀)	1967, 12, 10	国頭村与那の 琉大演習林	21歳	男	学生	下肢 吸血+	野鼠の生態調査実習 でヤマガメと接触
2	〃	1970, 6, 4	名護市の南南 城址内の林床	34歳	女	公務員	下肢 吸血-	仕事
3	〃	1987, 2, 23	名護市の 幸地川添いの 植物群生地	40代	男	公務員	大腿部 吸血+	クワズイモ群生地で 用をたした.
4	〃	1990, 3, 20	石垣市伊野田 の圃場	50代	女	農業	下肢 吸血+	農作業中にセマルハ コガメと接触
5	クリイロコイタ マダニ (♂)	1990, 8, 20	宜野湾市内	14歳	女	学生	外耳道 吸血-	不明

### III 考察

わが国における人体を刺咬するマダニ類は5属15種が知られている。発生頻度が高いマダニは8種で、その中にタカサゴキララマダニが入っている(宮本, 1990)。タカサゴキララマダニは東南アジアから日本にかけて広く分布し、家畜を始め野生の哺乳動物と宿主範囲も広い。哺乳動物以外の動物からの検出例として、沖縄県石垣島から杉本(1937)によってヒメアマガエルから本種の幼虫がみつかり、また、猪の寝床からも♂1採集したと報告されている(木船ら, 1971)。亀を宿主とするものにカメキララマダニがあげられるが、今回の事例では、亀からタカサゴキララマダニを採集することができた。他県での本種の人体刺咬例は、主に4~5月にかけて発生しているが、本報では2月, 3月, 6月, 12月に発生している。亜熱帯の沖縄では年間を通して機会があれば発生する危険性がある。

マダニ類の寄生様式は一端宿主を離れても、動物が通過する道筋の草の先端、木の枝や葉の縁について待機し、動物の出す炭酸ガスを感じて動き出し、その動物の体毛などを伝っ

て寄生する。症例2と症例3の場合がその良い例で、症例1と症例4のように宿主となった亀との接触で寄生を受ける場合もある。症例5の場合は加害種が犬を宿主とするクリイロコイタマダニであり、外耳道への寄生は稀なケースと言えよう。マダニ類の人体刺咬部位が下半身であった場合、患者自らもぎとるような処置で済ませ、事例としてあがってこないようである。感染症との関連性も予想されるので(山口昇, 1990)。医療機関での速やかな摘除処置と種の同定、マダニ刺咬症の情報交換がなされることが望ましい。

### <謝辞>

本稿を草するに当たり、情報を提供された石川保健所の知念正常衛生課長ならびに八重山保健所の安里義男衛生課長に謝意を表する。

### IV まとめ

1. 野外活動中にマダニの刺咬を受け、同定の結果は4例ともタカサゴキララマダニ *Amblyomma testudinarium* Koch, 1844と判明した。

2. ヤマガメ類との接触で刺咬を受けた2例について、タカサゴキララマダニの宿主範囲に加え、沖縄地方における人体刺咬例として報告する。

3. 犬を宿主とするクリイロコイタマダニ

*Rhipicephalus sanguineus* Latreille, 1806  
が人の外耳道に迷入し、刺咬するのは稀な症例であった。

## V 参考文献

初鹿了：岡大介・沖野哲也 (1990) マダニ若虫3個体の人体咬例，第45回日本衛生動物学会西日本大会抄録，p. 56

木船悌嗣・弓削静彦 (1971) タカサゴキララマダニの人体寄生例追加，久留米医誌，34：1240-1242.

熊田信夫・戸谷徹造 (1984) タカサゴキララマダニの人体寄生例，衛生動物，35 (2)：207.

宮本健司 (1990) マダニ類の媒介する感染症，日本医事新報，3419：138-139.

鈴木了司・山口昇・猿田隆夫・橋口義久 (1990) 高知県におけるマダニの人体刺咬12例，衛生動物，41 (1)：71-74.

上村清・近藤力王至 (1977) タカサゴキララマダニなど3種マダニの人体寄生4例について，衛生動物，28 (2)：249-250.

Yamaguti N., Tipton V.J., Keegan H.L. and Toshioka S. (1971) Ticks of Japan, Korea and the Ryukyu Islands, Brigham Young University Science Bulletin. Biological series XV (1)：pp.326

山本進・高岡宏之・鮫島潤 (1976) タカサゴキララマダニの人体寄生例について，衛生動物，27 (3)：304.

山口昇 (1990) マダニ類の感染症，日本医事新報，3454：128.